

グリーティング

八月はいやが応でも戦争の悲惨さを思い、心の重心が低くなる月です。父の両親と兄弟を広島原爆で亡くしたこともあって、私にとっての八月は子供の頃から特別でした。

仏様へのお供えに、母は炊き立てのごはん、麦茶、季節の果物、手作りの水ようかん等を並べました。お花は早朝に歩いて摘んだ野花でした。じっとその花を見つめて、目を閉じて手を合わせる母の姿を、今もはっきりと覚えています。

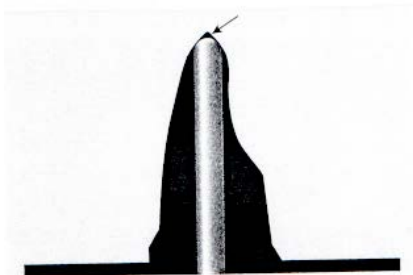
その母は今90才、もう私を娘と認識できなくなり、寝たきりの毎日ですが、何一つ不満を言わずいつも笑っています。母にならって私も野花を摘んできました。強い日差しにうるさいくらいの蝉の声が響く真夏の朝ですが、不思議に爽やかな気持ちで今日一日がはじまりました。 拝 SK



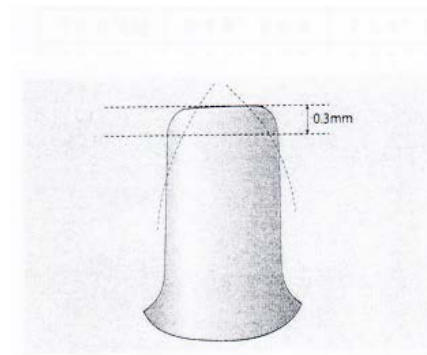
技工情報

下図の様に支台歯形成を通常のメタルセラミックやレジン前装冠と同様の先端部の鋭利な状態に形成されてしまいますと、ミリングという行為では正確に再現することが不可能になります。支台歯形成を行う際には通常の形成を行い、最後に切縁部を約0.3mm程度、短く丸めるようにして頂きますと、ミリングバーの入るスペースが確保され、適合の良いフレームを削り出すことが可能になります。

この様に、ミリングバーの直径の関係により、マージン付近において鋭利な角を付与せず、又、切端部付近ではミリングバーの直径を上回る厚みに仕上げ頂きますと、スキヤニングに適した支台歯形成となります。



支台歯の切端部が切削用ラウンドバーよりも細いとバーが支台歯の先端まで届かず空隙が生じてしまう。



空隙により膨らんだフレームを無理に形態修正したり、ポーセリンルームを確保するために内側に削ったりすれば厚みが薄くなり、歯折の危険性は増加する。また大幅に削れば孔が開いてしまう可能性もある。